箱館奉行所と函館開港（その 2）

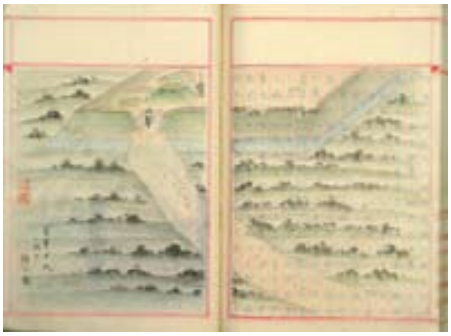
中尾 仁彦　箱館歴史散歩の会主宰、第1回 函館検定 上級試験合格、ＮＨＫラジオ「どどんと道南ラジオ」に月１回レギュラー出演中。

写真：箱館でのペリー会見の様子
（函館市中央図書館所蔵）

蝦夷地幕府直轄と防衛構想

鎖国を解いた幕府は、諸外国に対する防衛策として、ペリー来航の 2 カ月後に箱館とその遊歩地域 5 里（約 20 キロ）四方を松前藩から没収し、幕府直轄とした上で、箱館奉行所を函館山の麓（現在の元町公園付近）に設置します。さらに幕府は北方防備のため、五稜郭築造と 7 つの台場築造を計画するのでした。

さらに 1855（安政 2）年には防備を一段と強化するため、蝦夷地の大半を幕府の直轄地とし、松前・弘前（津軽）・盛岡（南部）・久保田（秋田）・仙台の 5 藩が防備を分担します。弘前藩は千代ヶ岡（もしくは千代ヶ岱。現在の千代台町付近）、盛岡藩は現在の元町配水場付近にそれぞれ陣屋を設置しました。松前藩も戸切地（現在の北斗市野崎）に、4 つの突出した保塁と 6 門の砲座からなる西洋式城郭を設け、郭内に陣屋を配置します。現在はサクラの名所として、春に多くの花見客でにぎわいを見せます。



写真：「『蝦夷錦』千代岡陥落の図」
（函館市中央図書館所蔵）

写真：左奥に建つのが元町にあった
箱館奉行所とされる
（函館市中央図書館所蔵）

箱 館 奉 行 所 設 置

箱館奉行所の任務は、千島・樺太を含む広大な蝦夷地の開拓と統治、箱館開港に伴う対外関係の円滑化でした。さらに箱館を中心とする海岸防備も急務で、箱館奉行の人数は当初 2 人でしたが、後に 3 人体制に強化され、その任務の重要度を増していきます。

開港後、外国人に五里四方の遊歩を認めたことで、箱館山から見下ろされる等の安全上の見地から、少しでも市街地から遠ざけ、また箱館湾からの各国軍艦の標的にされない場所への移転を考えます。第一候補に大野市渡（現在の北斗市内）、第二候補に神山（現在の函館市内）が挙がりました。しかし、通信手段が不十分な時代ゆえ、港および弁天岬台場との連絡を円滑にするには遠すぎるために、港から直線距離で 3.5 キロ離れた（当事の大砲は 3 キロ程度しか飛ばないとされたのが理由）、亀田の中心にあたる現在地に妥協します。当時、元町の奉行所は水不足で悩んでいただけに、亀田川の水を容易に取り込めるのも選定理由の一つでした。

1454（享徳 3）年、津軽から渡来した河野政通がアイヌとの戦いのために「館」を設置以来、時代の転換とともに組織体は変わろうとも、常に本拠を元町に構えてきた箱館のお役所が、初めて亀田・五稜郭へ移ることになります。

写真：箱館亀田一円切絵図
（函館市中央図書館所蔵）

「函館観光情報サイト　hakobura」より転載

ご案内

中尾仁彦さんの初版本「箱館はじめて物語」（600 円）をまちセン内 cafe Drip Drop で絶賛好評発売中です。